

平成 20 年 10 月 15 日
(財)日本セーリング連盟
レディース委員会
委員長 倭 千鶴子

平成 20 年 JOC 女性スポーツ担当者会議

報告書

趣 旨：本会と競技団体が「女性スポーツ」に関する課題を共有し、解決に向けたネットワーク作りを目的に本会議を開催。

主 催：(財)日本オリンピック委員会

期 日：平成 20 年 10 月 15 日 (水) 13:00~16:00

会 場：ナショナルトレーニングセンター「アスリートヴィレッジ小研究室」
115-0056 東京都北区西が丘 3-15-1 電話 03-5936-0400

対象者：①本会役員、女性スポーツ専門委員

②本加盟団体女性スポーツ担当(役員、委員、職員等)

出席者：60名 (財)日本オリンピック委員会、(財)日本陸上競技連盟

(財)日本水泳連盟、(財)日本サッカー協会、(財)にほんテニス協会、(社)日本アマチュアボクシング連盟、(財)日本バレーボール協会、(財)日本レスリング協会、(財)日本セーリング連盟、(社)日本ウエイトリフティング協会、(財)日本ハンドボール協会、(財)日本卓球協会、(財)日本相撲協会、(社)日本フェンシング協会、(財)日本柔道連盟、(財)日本ソフトボール協会、(財)日本バトミントン協会、(社)日本ライフル射撃協会、(財)日本剣道連盟、(社)日本近代五種・バイアスロン連合、(財)ラグビーフットボール協会、(社)日本山岳協会(社)日本カヌー連盟、(社)全日本アーチェリー連盟、(社)日本クレ射撃協会、(財)全日本なぎなた連盟、(財)全日本ボーリング協会、(社)日本トライアスロン連合、(財)日本ゴルフ協会、(社)日本ボディビル連盟、日本カバテイ協会、国立スポーツ科学センター

内 容：

1. 開会挨拶

(JOC 女性スポーツ専門委員長 平松純子)

* 方針

①女性のスタッフ育成、(指導員、審判、マネージメント、医事、科学、理事等)

②女性アスリートの強化、環境の向上

*目標

①各団体とのネットワーク作り

(アイデア、横のつながりを持つ)

②JOC キャリアアカデミー事業と連携

(引退後のあり方について)

2. 第4回 IOC 女性とスポーツ世界会議報告

(JOC 女性スポーツ専門委員 田辺陽子)

日程：2008年3月8日(土)～10日(月)

場所：ヨルダン・ハシミテ王国 死海

主催共催：国際オリンピック委員会 (IOC) ヨルダンオリンピック委員会

参加者：約600名 150カ国

IOC 会長, IOC 女性とスポーツ委員会委員長

ヨルダンオリンピック委員会会長 他

内容

*IOC 女性とスポーツ賞授与式

*社会変動の手段としてのスポーツ

①スポーツとビジネス

②スポンサーシップにおけるスポーツの考察

③女性の参加はスポーツの利益

④共同体レベルにおけるアクセスの平等促進

*ミレニアム開発ゴールの課題 女性と少女の貢献

*リーダーシップの試練としてのスポーツ

①スポーツの維持と参加、そして動力

②少女と女性にとってのスポーツと健康

③スポーツにおける文化などの障壁の克服

④スポーツを通じた今日の若者への接近

*全てのセッションの要約

閉会式

注：IOC 女性とスポーツ委員長 アニタ デフランツ以下
24名 （日本人委員猪谷千春氏 1 週間前に選出）

3. 北京オリンピック大会参加女性競技者へのアンケート調査結果
(JOC 女性スポーツ専門委員 山下佐知子)
北京オリンピック参加選手対象者 169 名 回答数 138 名 回答率
82%
 - ①男性競技者と比較した際の待遇について
 - ②男性スタッフとの関わりについて
 - ③セカンドキャリアについて
4. 女性スポーツに関するそれぞれの取り組み
(北京オリンピック日本代表選手団本部ドクター土肥美智子)
 - * 女性ドクターの役割
現場
 - ① 男女性別は関係なし
 - ② 人間性
 - ③ 選手やチームとの距離感
 - ④ チームでの役割と責任必要性
 - ①婦人科に関連した問題が生じた場合
 - ②選手よりの要望
 - ③同姓の人生の先輩としての存在意義女性ドクターであるが故の注意事項
 - ①女性であるからという理由のみの選出では無く、実力で選ばれるべき
 - ②すべてを男性と同レベルで仕事をする必要はなく、特性を生かしたうえで選ばれる。
 - * シャペロンの役割
(北京オリンピック水泳競技総務担当シャペロン 村松さやか)
 - ①ドーピングの付き添い
 - ②選手並びコーチが関わるすべての（競技）その他）環境を整える
5. デイスカッション（出席者自己紹介、その他）
 - * トップアスリートが抱える諸問題について

① 長期遠征の際の女性ドクターの必要性

② 託児室に関して

(日本セーリング連盟では 2002 年の国体よりチャイルドルームの設置を実施現在も継続していることを報告)

6. 閉会挨拶 JOC 総務部長

JOC 女性スポーツ専門委員長

感想

オリンピック出場選手などのトップアスリートの出席のもと「女性スポーツ」に関連する話し合いが行われました。

昨今では、IOC、ISAF においても女性役員や競技者の進出に関してのサポートや啓蒙が活発にされている傾向にあるが、日本においても JOC の女性専門委員会が主体となって各競技団体の代表者と話し合う機会を作り推進し、支援を行うと言う課題にレディーズ委員会の委員長である立場で本会議に出席いたしました。

各競技団体の女子代表者（トップアスリートやマイナーと言われている競技団体など）との交流においての情報交換など非常に有意義でありました。

しかしながら、毎回会議に出席して感じることは、女子代表者がこのように集まって会議を開き討議しても話し合いだけで、一向に実行が出来ていないことに多少の不満を感じました。今後いかに実動していくということを課題にして一歩ずつ進めていく会議であって欲しいと思います。

以上